

## 令和5年度事業系一般廃棄物減量化等計画書兼実績書の集計について

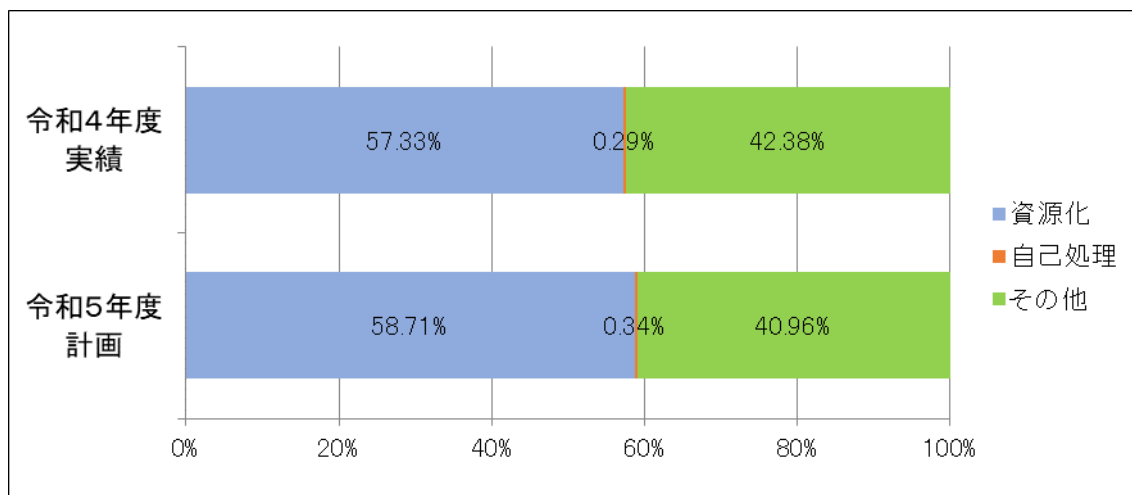
「廃棄物の減量化、資源化及び適正処理等に関する条例」第16条第1項、同条例施行規則第21条第1項に基づいて、提出された事業系一般廃棄物減量化等計画書兼実績書の集計結果は次のとおりです。

(単位：トン)

		排出量合計	処理の内訳 注1)		
			資源化	自己処理	その他
令和4年度 実績 (218事業者)	排出量	20,237.05 (100%)	11,601.77 (57.33%)	59.22 (0.29%)	8,576.06 (42.38%)
	平均	92.83	53.22	0.27	39.34
令和5年度 計画 (215事業者)	排出量	19,988.72 (100%)	11,734.53 (58.7%)	67.60 (0.34%)	8,186.59 (40.96%)
	平均	92.97	54.58	0.31	38.08

注1) 処理の内訳(資源化:資源化処理業者への処理委託 自己処理:生ごみ処理機等での自社処理 その他:焼却等の資源化をしない処理)  
 ※268事業者に調査票を送付し218事業者から回答を得た(回収率81.3%)。  
 ※数値は端数処理をしているため合計と合わない場合がある。

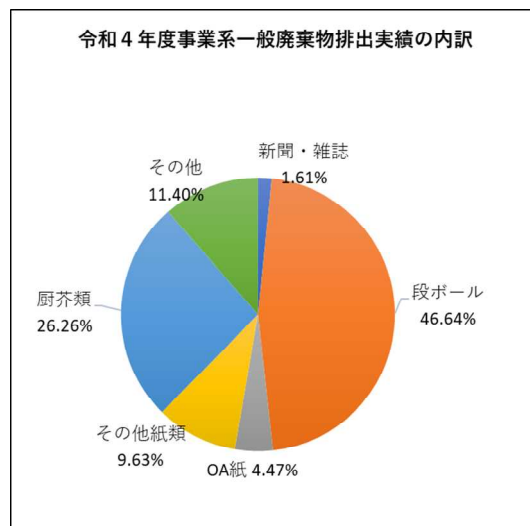
令和4年度実績と令和5年度計画について処理の内訳を比較すると、ごみ処理の方法に変化はなく、事業系一般廃棄物は約6割が資源化、約4割はその他の方法(焼却など)で処理されています(以下グラフ参照)。



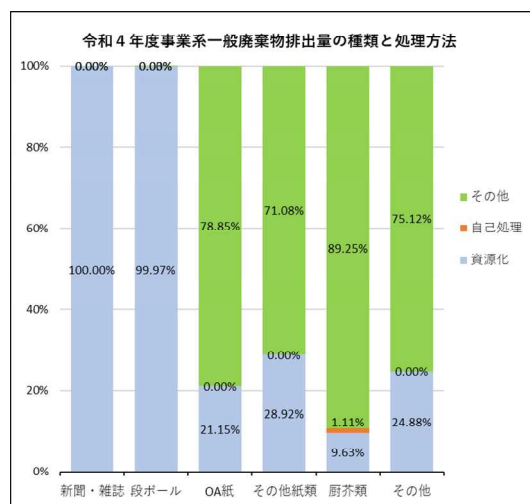
1事業者あたりの排出量(平均)では、令和5年度計画は、令和4年度実績より0.14トン増加しました。

令和4年度実績は、合計で約20,000トンの事業系一般廃棄物が排出されました。廃棄物の種類ごとの割合は右図のとおりです。

全量のうち最も多い割合を占めたのは段ボールで46.64%、次いで厨芥類が26.26%、その他の紙類、OA紙、新聞・雑誌の順になりました。



廃棄物の種類ごとの処理方法の内訳は、右図のとおりです。最も排出量の多い段ボールと新聞・雑誌は、概ね100%が資源化されました。OA紙、その他紙類及びその他紙類については約7~8割程度、厨芥類については大部分がその他の処理(焼却処理など)で処分されました。



令和4年度事業系一般廃棄物排出量の内訳および処理方法の内訳

(単位：トン)

	排出量合計	処理の内訳		
		資源化	自己処理	その他
新聞・雑誌	325.84	325.84	0.00	0.00
	100.0%	100.00%	0.00%	0.00%
段ボール	9,438.08	9,435.38	0.00	2.70
	100.0%	99.97%	0.0%	0.03%
OA紙	904.60	191.28	0.00	713.32
	100.0%	21.15%	0.00%	78.85%
その他紙類	1,949.07	563.67	0.00	1,385.40
	100.0%	28.92%	0.00%	71.08%
厨芥類	5,313.29	511.87	59.22	4,742.20
	100.0%	9.63%	1.11%	89.25%
その他	2,306.17	573.73	0.00	1,732.44
	100.0%	24.88%	0.00%	75.12%

※数値は端数処理をしているため合計と合わない場合がある。